

# 隨泉寺寺報

平成19年(2007年) 1月号 第437号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

御正忌報恩講法要

講師 住職 自修

講題 『御伝抄のころ』

『さへられぬ 光もあるを おしなべて  
隔てがほなる 朝霞かな』 法然上人

【通釈】「さえぎろうとしてもさえぎれない光もあるものです。しかしどこもかしこも、光を隔てているかのような様子で立ちこめている朝の霞だなあ。」

平成十九年(2007)の新年を迎え、まっさらな新しい一年が始まります。今年はずいぶん暖かい新年でした。初詣にたくさんの方がお参りに行かれたようです。1月2日3日の太陽と1月1日の太陽も同じなのですが、何か違う新しい一日が始まるような気がします。

去年の悲しいことは忘れましょう。雨や雪の日もありますが、いつまでもやまない雨はありません。吹雪の凍える日もありますが、暖かい陽射しは必ずやってきます。厚い雲の向こうに、かがやく光が注しています。霞の晴れるときが来ます。仏様の慈光はどこにもゆきわたっているのです。

## 1月の法座予定

- 1月 6日午後6時より……………門信徒会本部役員会
- 1月 7日……………掃除 上平原2
- 1月 14日昼席午後1時より……………御正忌報恩講法要
- 1月 14日夜席午後7時半より……………大逮夜 御伝抄拝読
- 1月 15日朝席午前10時より……………御正忌報恩講法要 御伝抄拝読 おとき
- 1月 15日昼席午後1時より……………御正忌報恩講法要 御俗抄 新年互礼会
- 2月 2日午後6時より……………門信徒会本部役員会



老院 (前住職) 鎌田 不動

あけましておめでとうございます。

平成十九年(2007年)の新年が明けました。

昨年のこと、又、この年までの来し方を忍び、感慨無量であります。先ず初めに、昨年暮れに、除夜の鐘を撞くのは百八の煩惱を打ち滅ぼして、新しい年をきれいな心で迎えると聞きましたが、百八の煩惱とはどんな煩惱ですかと質問を受けました。

仏教辞典では、欲愛、恚、慢、見、疑、纏、愛、欲界、色界、無色界、等記述がありますが、愛欲、貪欲、瞋怒、愚痴、疑う、惑う、邪見、驕慢、悪見、見取見、その他色々説明を要しますが、あらゆる心の働きが煩惱であります。

新しい年を迎えて今年こそはと、心を新たにしたいものです。

さて、今年の座右の言葉として

假令身止、諸苦毒中、我行精進 忍終不悔

道を求めてたとい身は、苦難の毒に沈むとも、  
ねがい果さんその日まで、しのびはげみて悔いざらん。

たといこの身を諸々の苦難の毒の中に沈むとも、我が行を精進して、忍んで悔いないと法蔵菩薩が世自在王佛

のみもとにありて四十願を建立される前に、五劫の思惟のち、讚仏偈の最後に述べられたお言葉であります。四十八願成就して正覚の阿弥陀如来と成仏されました。凡夫が佛に成るといふ本願が成就されて、今、私がお救いのみ手の中に生かされているいのちを預かっているのであります。私が、私の命が終わるまで、精一杯人生の務めを努めさせて頂きたいという思いを、座右の言葉といたしました。勿論私の願いは、法蔵菩薩の願いと比べられるものではありません。



しかし恵まれた命、与えられた命、隨泉寺のご門徒の皆さんにお育てを頂いた命、前住職、老院としてふつつかであり、役には立ちませんが責任役員として責任を果たしたいと思っております。なお、中野めいわ保育園園長としての務め、その他公職を預かっています。健康に留意し、駄馬に鞭打ち、精一杯の精進をと覚悟を新たにしています。門信徒の皆さんのご理解とご協力をお願いいたしまして新年のご挨拶といたします。

合掌

## ☆御礼

永代経懇志 金 拾萬円 木本 まつえ殿 故 木本 行雄様 特別永代経志として  
門信徒会へ 金 一封 木本 まつえ殿 故 木本 行雄様 香典返しとして

# 光いっぱいのにしよう

新年おめでとうございます。

今年は、お子さんが、どんなすばらしい芽をふき、どんなすばらしい芽を伸ばしてくださる年になるのでしょうか。いい子の芽を伸ばして、光いっぱいのにしたいものです。

どの子も、仏さまの願いをいただいて生まれさせていただいているのです。悲しい条件を背負っている子どももありますが、必ず救うという仏さまのお力とお智慧の導きをいただくなら、きっと道は拓けるでしょう。

T中学は、暴力学校として長い間新聞にも書かたてられてきた学校でした。悲しい条件を背負った子どもがたくさんいたのです。秀れた指導力をもった校長先生が次々に送り込まれても、生徒指導の権威者といわれている先生がたくさん送り込まれてもだめでした。

ところが、その学校が、今、見事な学校に変わっています。暴力のけはいもありません。生徒たちの目が澄んで、学校に光があふれています。

現在の校長先生が赴任されて今年で三年目ですが、最初はやはりさじを投げたい気もちだったとお聞きしています。出張から帰ってこられると、教室の窓から身をのりだして「校長のどあほ」「校長のどあほ！」とどなりつける。給食の牛乳びんを投げつける。運動場の生徒は石を投げつける、という有様だったといえます。

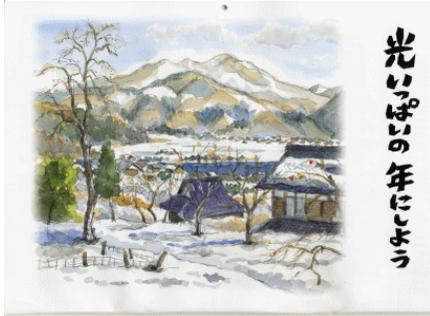
ところが、校長先生は大きな智慧の導きに遇われたのです。そして、何べん牛乳びんを投げても、石を投げてもわざとあたらないように投げてくれていることを発見されたのです。校長先生に、大きな喜びと、安らぎと希望が芽生えはじめました。そしてその頃から生徒が変わりはじめたといえます。

門信徒会長 平岡周三

謹んで初春のご挨拶を申し上げます。

皆様には、新しい気持ちで新年を迎えられたことと、心からお慶び申し上げます。

忙しい忙しいといっている間に気づいてみたら、あっという間に一年が



過ぎていました。

振り返ってみますと、いじめや自殺をはじめ親が子供を子供が親を虐待するなど、本当に残念な事件や事故が多かったことに、心が痛む思いがします。これも世の人々も痛感されて、18年の世相を象徴する漢字が、たった一つの「命」に決まりました。

新しい新年を迎えるお寺の鐘が「ご恩ご恩」と鳴る響きをご縁といただき、授かったかけがえのない尊い命を大切にして、何が起っても安心して、生き抜かさせて いただける年になりますよう、皆様と共にご縁に遇わせて

いただきたいと念ずるものです。

お寺は葬儀や法事だけをするところという、一般的な認識をあらため、今年は地域に根ざした、一人ひとりの苦悩に共感できる開かれたお寺として活動を展開し、聞法の道場として、取り組んでまいりたいと思いますので、皆様のご協力をお願いいたします。

今年もよろしくご指導ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げまして、ご挨拶といたします。

合掌

平成19年1月

門信徒婦人部部長 太尾田 道子

迎春

新春を迎え御目出度う御座います。

皆様には良き新春を迎えられ、お健やかに念仏ご相続のこととお慶び申し上げます。

昨年はいろいろと仏教婦人会活動に御協力、御尽力賜りまして まことにありがとうございました。

過ぎ年さまざまな事件や問題が沢山にございました。親鸞聖人のおことばに「世の中安穏なれ 仏法弘まれ」（ともに命かがやく世界へ）とあります。

「仏教婦人会綱領」「仏様の願い」に「お聴聞をかさね」皆様と共に念仏に遇わせていただくことの出来るよろこびをうれしく思っています。

明るい一年でありますよう御法儀ますます繁盛を念じ、ご恩報謝の日ぐらしを心がけ過ぎて

いただきたいと存じます。

本年もどうぞよろしくお慶び申し上げます。

合掌



平成19年1月1日